

オープン市場短信 (2020年3月)

2020.3.10

◆ 2月のCP市場動向

2月末のCP市場残高は、2007年12月末(22兆6,858億円)を上回る22兆7,742億円と、過去最高となった(前年同月比+2兆912億円)。発行市場は、下旬に事業法人の大型発行案件が相次ぎ、22兆円台後半を維持する動きとなった。業態別残高では、一般事業法人が9兆6,051億円(前月比+2,529億円)と、1月末を上回り過去最高を更新した。その他金融が10兆3,352億円(同+761億円)、金融機関が1兆7,218億円(同+1,405億円)の増加となった。ABC Pは、1兆1,121億円(同△187億円)と若干減少した。発行レートは、高水準の発行残高を受けて上昇地合いとなり、期内物や残高の積みあがっている銘柄ではプラスレートでの出合いが散見された。投資家ニーズの強い期越え物についても、浅いマイナスレートから0%近辺での出合いであった。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄(a-1+格) 0.000%近辺 一般事業法人(a-1格) 0.000%割れ~0.003% その他金融銘柄(a-1格) 0.000%割れ~0.030%

【業態別残高内訳】

(単位:億円)

業 態	2月末残高	1月末残高	増 減
一般事業法人	96,051	93,522	2,529
その他金融	103,352	102,591	761
金融機関	17,218	15,813	1,405
政府系金融	0	0	0
銀行等	3,085	2,965	120
証券	14,133	12,848	1,285
ABC P	11,121	11,308	-187
計	227,742	223,234	4,508

(注:買入消却分含む)

【格付け別の発行レート】

格 付	1か月	2か月	3か月
a-1+ (一般事業法人)	△ ～ 0.0000%	△ ～ 0.0000%	△ ～ 0.0001%
a-1 (一般事業法人)	△ ～ 0.0330%	△ ～ 0.0500%	△ ～ 0.0020%
a-1+ (リース銘柄)	△ ～ △	△ ～ —	△ ～ 0.0095%
a-1 (リース銘柄)	0.0000% ～ 0.0100%	0.0010% ～ 0.0180%	0.0025% ～ 0.0300%
a-2	0.0010% ～ ケ0.15%	— ～ ケ0.15%	— ～ ケ0.15%

«CPオペ»

CP等買入オペは、2月は1回のみのおファーで18日に3,500億円で実施された。市場残高が高水準で推移していることから、ディーラーの売却ニーズは強く、応札額は1兆525億円となった。結果は、按分レート△0.001%・平均落札レート0.000%と、前回（按分△0.001%・平均落札0.002%、）比で按分レートは横ばい、平均落札レートは低下した。

〈月末オペ残高：2兆1,819億円〉

【日銀CP等買入れオペ実績】

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
2月18日	2月21日	3,500	10,525	3,480	-0.001%	0.000%	37.2%

«ABC P»

ABC Pは、1兆1,121億円と前月比△187億円減少し、前年同月比も△127億円の減少であった。

«短期社債登録状況»

証券保管振替機構によると、2月末時点における発行登録企業数は変わらず、530社であった。

«CP現先市場»

現先（S/N）レートは運用ニーズ強く、マイナス～0%近辺での出会いで

0%では引き続き買い残り状態となっていた。

◆ 3月のCP市場動向

3月の発行市場は、例年では決算期末での有利子負債の削減から、一般事業法人は期越え物の発行を調整し、市場残高は大幅に減少する。しかし、本年は新型コロナウイルスの影響で、多くの企業で手元流動性を厚くする動きにより、市場残高が高水準で推移している。7日時点では、約24兆1,300億円となり過去最高を更新した。そのため、今決算期末は例年とは異なり大幅に減少する動きとはならず、高い市場残高を維持することを予想する。月末残高は、37カ月連続して前同月比を上回ると思われる。

発行レートは、発行増を受け上昇地合いとなっていることから、多くの銘柄で期内・期越えを問わず、0%近辺からプラスレートでの出合いを予想する。

«CPオペ»

CP等買入オペは、当初4日・18日・26日の各回3,500億円で合計1兆500億円の予定であったが、4日のオペでは500億の増額となり4,000億円でオフアされた。結果は、按分レート Δ 0.001%・平均落札レート0.002%と前回（按分 Δ 0.001%・平均落札0.000%）から、平均落札レートが上昇した。ディーラーの売却ニーズは高く、応札額は1兆1千億円を超えた。18日以降のオペについては、高い市場残高を受けて当日のオフア増額が考えられ、レートは横ばいから低下地合いを予想する。

«CP現先市場»

CP現先レートは、投資家の運用ニーズが強く、引き続き0%近辺での出合いを予想する。

* 参考資料 (出所：証券保管振替機構)

【2月末発行残高 上位 10 社】

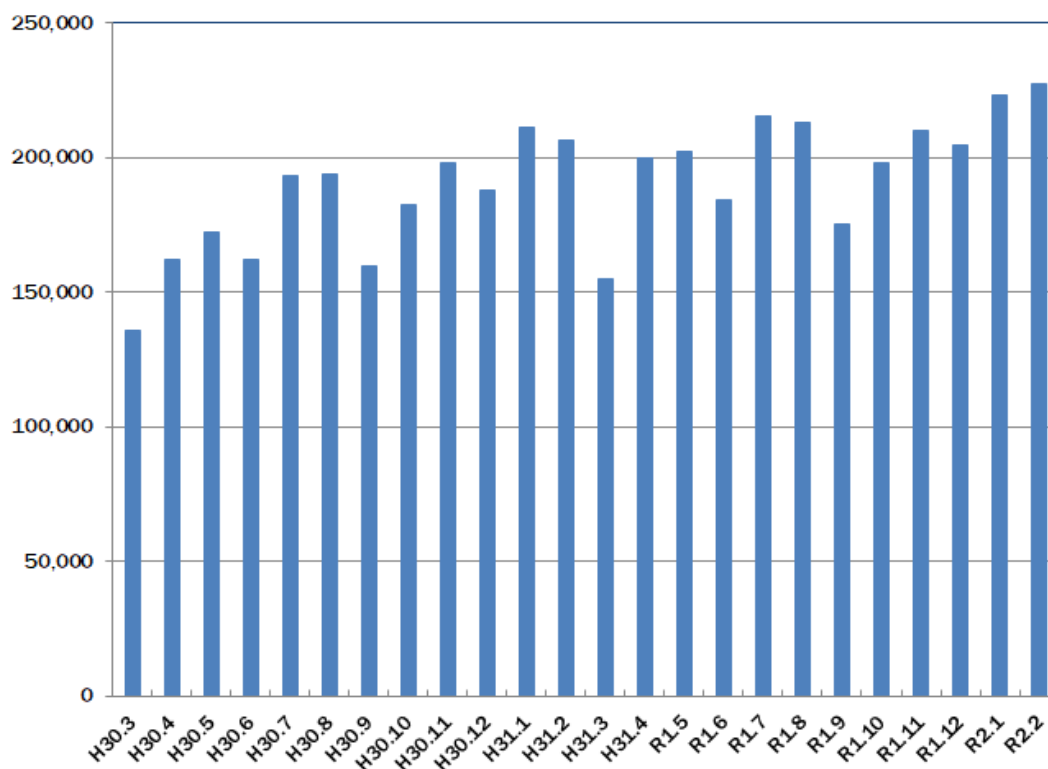
(単位：億円)

	発行企業名	2月末残高	1月末残高
1	NTTファイナンス株式会社	11,130	11,460
2	三井住友ファイナンス&リース株式会社	10,261	10,029
3	三菱商事	9,099	8,979
4	三菱UFJリース株式会社	6,000	6,232
5	株式会社クレディセゾン	5,930	5,980
6	三菱重工業	5,820	5,330
7	みずほリース株式会社	5,350	5,500
8	東京センチュリー株式会社	5,070	5,260
9	芙蓉総合リース株式会社	4,497	4,497
10	コンチェルト・レシーバプルス・コーポレーション	4,459	4,482

【短期社債市場残高】

(2018年3月～2020年2月)

(単位：億円)



本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証

するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長（登金）第 243 号

大阪本社 〒 541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋 2 丁目 4 番 2 号

東京本社 〒 103-0022 東京都中央区日本橋室町 1 丁目 2 番 3 号

加入協会 日本証券業協会